

令和7年度 第1回周南市総合教育会議 会議録(要約)

- 1 日 時 令和7年8月18日（月）
開会：15時00分 閉会：16時00分
- 2 場 所 周南市岐山通1丁目1番地 周南市役所 共用会議室F
- 3 出席委員 藤井律子市長 厚東和彦教育長 松田福美委員
片山研治委員 岡寺政幸委員 吉本妙子委員
- 4 事務局 教育部長 教育部次長（教育政策課長） 生涯学習課長
人権教育課長 学校教育課長 学校給食課長
中央図書館長 企画部長 企画部次長
- 5 書記 教育政策課（課長補佐 教育政策担当係長）
- 6 協議事項 以下の通り要約して記載

（1）協議内容の説明

発言者	発言内容
事務局	本日の議題は、「未来につながる 学びがあふれる 小中学校のあり方」サブタイトル「小中学校の適正規模・適正配置について」

（2）協議内容の要約

市長	始めに事務局から説明をお願いする。
事務局	<p>【スライド4：適正規模・適正配置の基本的な考え方】</p> <p>文部科学省は、適正規模や適正配置の基本的な考え方として、3点を示している。</p> <p>① 学校では、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることが重要であることなどから、学校は一定規模を確保することが重要。</p> <p>② 学校規模適正化の検討は、あくまでも、児童生徒の教育条件の改善を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべき。</p> <p>③ 学校は地域のコミュニティの核として、防災・保育・地域の交流の場などの機能を併せ持つとともに、地域の実情により、学校統廃合が困難な場合や、小規模化として、存続させが必要な場合もある。</p>

【スライド5：学校規模の適正化】

学校規模の適正化については、「学校教育法、施行規則」において、学級数の標準規模を、小中学校では、12学級以上、18学級以下とされている。

【スライド6：学校の適正配置について】

国においては適正な配置の基準として、「通学距離が小学校にあっては概ね4キロメートル以内、中学校にあっては概ね6キロメートル以内」としており、通学時間については、遠距離通学の場合では、おむね1時間以内

スライドの地図を見ると市街地や沿岸部では、複数の学校で通学圏が重なっていることがわかる。

【スライド8：学校教育に求められる役割とは】

文部科学省が出した、令和答申を読んでいくと、これからの学校教育には、自分で課題を設定し、その解決方法を自分で考え、意欲的に取り組み、解決に至るまでの過程及び取組の成果を評価する能力をもつ、「自立した学習者」の育成が求められていることが分かる。

【スライド9：「自立した学習者」の育成に必要なこと】

「自立した学習者」の育成には、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現することが必要。

具体的な例

- ① 児童生徒一人一人が自分で考え、選び、決める過程を大切にすること
- ② 仲間とともに、互いに認め合い、高め合う場を大切にすること

児童生徒の学びをよりよいものにしていくために、よき「伴走者」として、大人の存在が不可欠

多様な大人との交流を通じて、児童生徒は新たな価値に触れ視野を広げ、受け入れられる経験から自信と成長を得られると考える。

【スライド10：周南市で進めている「児童生徒を主語にした学校改革】

変化の激しいこれからの中社会においては、これまで以上に、「自立した学習者」であることが求められる。

学校教育は、児童生徒の思いや願いを基盤に、大人と共によりよい活動を創る姿勢が必要。

周南市教育委員会の『児童生徒を主語にした学校改革』では、市内小・中学校は以下の3つの重点事項に取り組んでい

る。

- ① 大人の自己満足ではなく、児童生徒の思いや願いを大切にした授業づくりを進めていくこと
- ② 小中9年間で経験する学習が、「何のために学ぶのか」ということを実感できるような、つながりのある9年間の教育課程をつくっていくこと
- ③ 自分たちでよりよい集団・よりよい社会を創るという意識を高めていくこと

このような取組の実現には、学習や生活の場として望ましい一定規模の集団を確保する適正規模、または適正配置が必要。

【スライド12：再編整備の経緯】

再編整備の経緯

- ・ 平成17年度：府内で学校再配置計画策定委員会を立ち上げ、学校配置状況の現状把握等を行い再配置計画の検討実施
- ・ 平成18年度：外部委員で構成する周南市学校再配置計画策定協議会を設置、学校規模及び学校配置の在り方について諮問
- ・ 平成19年3月：協議会から答申の提出

答申において、「児童生徒の個性を伸ばすとともに、社会性を育て、生きる力を身に付けるためには、学習や生活の場として、望ましい学校規模（＝適正規模）を実現することが必要である」と学校規模適正化の意義が示されている。

【スライド15：小規模特認校制度の創設】

児童の豊かな人間性の育成を図る、少人数を生かした特色ある教育活動を展開する、といった、小規模ならではの教育活動を行うことで、小規模校のメリットを生かす教育活動を進めている。

現在、6つの小学校を小規模特認校として認定。

【スライド16：コミュニティ・スクールの取組】

平成24年に市内全ての小中学校をコミュニティ・スクールに指定し、学校と地域が育てたい、子どもの像を共有し、地域の特色や強みを生かした「学校づくり」に取り組んでいる

【スライド18：年齢層別人口の推計】

15歳未満について、令和7年で12,800人、5年後の令和12年では、11,000人、10年後の令和17年は、1万人を割りこみ、25年後の令和32年では、8,1

00人と令和7年に比べて、5千人（4700人）近く、減少すると推計されている。

【スライド19：人口推計から学校数を算出】

令和7年現在、周南市では、27小学校、13中学校、地域の特性や地理的条件等を全く考慮せずに機械的に考えると、小学校で8～9校、中学校は5校で充足されるという試算になる。

広い市域を持つ周南市の地域特性に配慮しながらも、適正な学校数に集約することが必要。

【スライド20：児童生徒数の推移】

周南市の児童生徒数はそれぞれ昭和57年、昭和61年をピークに大幅に減少が進んでいる。

【スライド21：周南市学校施設長寿命化計画】

周南市では、適時、適切な整備が実施できるように「事後保全型」から「予防保全型」の施設管理への転換を目指し令和2年3月に「周南市学校施設長寿命化計画」を策定。

学校施設の70%以上が築30年以上を過ぎており、設備関係など、突発的な修繕なども多くなっている。

計画の考え方として、20年毎に大規模修繕、長寿命化改良等を行い、80年で改築を行うこととしている。

【スライド22：周南市学校施設長寿命化計画】

2030年後半から、築80年を迎える学校施設が出てくる。

現行の学校施設のすべてを将来にわたって、維持・更新していくことは、非常に困難。

教育効果を主眼におき、財政効率の観点から、政策的な取捨選択及び、重点投資をする必要がある。

【スライド23：新たに求められる視点】

(1) 不登校児童生徒への対応

(2) 特別な配慮を必要とする児童生徒への対応

【スライド24：新たに求められる視点】

教育情報化の進展で、GIGAスクール構想のもと、今後、学びのDX推進や生成AIの活用が進む。

【スライド26：基本理念・基本方針】

第3期教育大綱の基本理念は、

「未来を生き抜く、子どものための、興味・楽しさ・勇気を育む」「子どもまんなか教育」とし、学校教育に大きく関わる基本方針として、①「未来につながる学びがあふれる学校をめざして」を掲げ、学校のあるべき姿を示している。

	<p>【スライド27：推進方向5：望ましい教育環境の充実・整備】</p> <p>基本方針①に基づく施策として、推進方向5「望ましい教育環境の充実・整備」とし、目標達成に向け、「子どもの学習環境の改善や十分な教育効果の実現に向けて、学校の適正規模化の方策を検討する」としている。</p>
市長	<p>少子化が進んでいく中で、これから社会の状況を考えた時に周南市で育つ子どもたちにとって、教育環境を整えていくことはとても大切なこと。</p> <p>学校規模・配置の適正化は、進めなければならない本当に大切な問題ではあるが、丁寧に取り扱い、検討していかなければならない。</p>
岡寺委員	<p>「再編・適正規模・適正配置」と言葉はすっきりして聞こえるが、実際には地域に深く関わる非常に難しい問題。</p> <p>保護者としては「できれば集団の中で学ばせたい」という思いが必ずあると思う。</p> <p>地域の方々が「子どもたちにいてほしい」「この学校をなくさないでほしい」と願うのは当然だと思う。</p> <p>一方で、少子化による現実的な問題が差し迫っていることは明らかであり、地域の理解を得るには早い段階からの丁寧な説明が必要で、住民自身の問題でもあることを自覚してもらう必要がある。</p> <p>以前、「夢プラン」という取組があり、地域を盛り上げるアイデアを自分たちで考えるという内容だった。今回もそれに近い取組になるのかもしれない。</p> <p>地域の状況、少子化の中、現在の学校数維持は困難であることを共有し、「どうしていくのか」を皆で考えることが必要。</p> <p>そのような「きっかけ」や「話し合う場所の提供」、そして「考える機会の創出」は、今後ますます必要になる。</p>
吉本委員	<p>先日、岡山県で開催された研修会で、他市の事例を聞き、全国的に人口減少、特に少子化については共通の課題であると改めて実感した。</p> <p>人口減少が止まらない今の状況では、必ず取り組まなければならぬ、しかも喫緊に進めなければならない課題である。</p> <p>課題は大きく二つに分けられる。</p> <p>第一に「学校運営」で、子どもたちが、「大人数の中でしか学べないこと」を、どうやって保障するか。</p> <p>第二に「学校施設」で、築80年を迎える建物など老朽化</p>

	<p>への対応が迫っていること。</p> <p>課題を克服するにあたり、最も重要なのは教育大綱の「理念」で、こどもたちの未来と地域の未来を守ることが目的であることを見失ってはならない。</p> <p>大綱で定めた「こどもまんなか教育」を実現するため、大人や地域がどのようにサポートしていくのかを常に意識して進めていく必要がある。</p> <p>そのために、「丁寧な説明」は欠かせない。</p> <p>立場の違いをお互いに理解し、数値やメリット・デメリットをすべて共有した上で検討することが必要。</p> <p>さらに、イラストなどを用いて「見える化」し、誰にでも分かる形で情報提供することも大切。</p> <p>岡山県玉野市の事例をはじめ、全国の事例を参考にしながら、周南市の状況に当てはめて取り組んでいくのも有効な方法ではないかと考える。</p>
片山委員	<p>将来的なことを見据えても、非常に重要な課題である。</p> <p>鹿野では、元々小学校が5校、中学校は1校あり、現在は小学校が一つに集約された。</p> <p>当時、子どもの数が自然に減ったため、「鹿野地域のこどもたちは鹿野小学校に通う」という流れになつた時でさえ「地域の学校がなくなる」ということに対するは、住民からいろいろな意見が出た。</p> <p>「こどもを中心に考えるべき」「地域に学校を残してほしい」と、立場によって意見は違うが、最終的には「これで良かった」と納得できる形になつた。</p> <p>今回も同様に、最終的に「良かった」と言える結論に導くことが重要であり、そのためには、時間をかけた丁寧な説明と、将来像を地域の方々にイメージしてもらう工夫が必要で、できるだけ早い時期から取り組むべきだと考える。</p> <p>コミュニティ・スクールなど様々な活動がある中で、「学校があつて地域がある」という考え方は外せないが、異なる適正配置になった場合には、コミュニティ・スクールの在り方そのものについても考えなければならない。</p> <p>最も大切なのは、周南のこどもたちをどのように育てていくのか、という視点。</p> <p>適正配置が進めば、「ふるさと」の捉え方も、身近な範囲だけでなく、より広い地域が「ふるさと」として意識されていく可能性もある。</p> <p>こうした「ふるさと観」の変化も含めて考えながら、適正</p>

	配置を進める必要がある。
松田 委員	<p>学校は、地域に暮らす子どもたちが集まってできたのが成り立ちだと思っている。</p> <p>地域とのつながりを本当に大切にしつつ、同時に教師として、子どもを育て人格形成を支える場が学校である、と常々言われてきた。</p> <p>教育の質を考える上では、子どもの視点に立って物事を見ていくことが大切。</p> <p>文科省が「12学級」を一つの基準として示しており、これはクラス替えができる規模を意味している。</p> <p>特に小学校においては、「クラス替えができる」ということが非常に大きな学びの場となり、同じ人とずっと一緒に過ごす環境と、人が入れ替わる環境では、子どもが得られる経験が大きく違う。</p> <p>多様な価値観や考え方に対する理解が深まる中で、「失敗できる」「やり直しができる」という経験も含まれている。</p> <p>今の子どもや大人は「失敗すること」に強い不安を抱いている。しかし、失敗しても次に生かす体験を積み重ねることで、失敗を恐れず、挑戦する力を育てることができる。</p> <p>「子どもに失敗させない」ことは、むしろ成長の幅を狭めてしまうのではないかと強く危惧している。</p> <p>自分が学級担任をしていたときも、子どもたちの成長を日々感じていたが、数年後に再会したとき「子ども同士の関係を通して得られる成長」の大きさを実感する。</p> <p>実は「子ども同士の関係性」の中で、日常的に様々な学びや経験が生まれている。そうした意味でも、適正規模の学校というのは重要である。</p> <p>資料で12学級未満の学校一覧を見たときに、都市部でも子どもが減少する学校が増えていることに驚いた</p> <p>母校への思いは誰もがもっており、学校も地域と共に教育を作り上げてきた歴史もあるが、それでも「子どもの成長や経験」という観点からは、学校にはある程度の集団規模が必要だということを、しっかり考える必要がある。</p> <p>そのうえで、「適正規模」をどう捉えるのか、指針を示していくことが重要。</p> <p>適正規模の考え方は一つではなく、例えば小中一貫校を設けるという形もあり、小規模であっても、小中9年間を通じて子どもが出会い、経験を重ねることができる仕組みをつくれば、教育の質を高めることができる。</p>

	<p>子どもには十分な集団体験を提供できる教育環境が必要。</p> <p>学校施設は長寿命化計画や GIGA スクール構想による整備が進む一方で、維持管理には相当の予算が必要。</p> <p>地域の皆さんも協力して環境を整えてくれているが、市長の「きれいな学校で勉強したい」という言葉の通り、行政が予算を確保し改善を進めすることが求められる。</p> <p>教育環境のために「学校施設のあり方」についてもしっかり議論していく必要がある。</p>
市長	<p>今後は特別教室や体育館への空調設置を進めなければならないからこそ、適正配置を考えていかなければならない。</p> <p>ただし、子どもが減った学校はなくすという考え方ではなく、違う考え方が必要だと感じている。</p>
教育長	<p>この議論ではどうしても小規模校ばかりが取り上げられがちだが、大規模校と小規模校の双方での勤務経験の中で、それぞれに課題があると感じている。</p> <p>小規模校から中学校に入学てくる子どもたちは、中学に入っても関係性に変化が生まれず、難しさを抱えることがある一方、大規模な小学校に通っていた子どもたちは、今度は集団の中に埋もれてしまって、自分を主張する力が弱いという面もある。</p> <p>いずれにしても子どもたちが楽しく学校生活を送れるように、学校側ではさまざまな工夫をしている。</p> <p>今後「自立した学習者」を育てていくためには、教育大綱にもあるとおり、学校は児童生徒の「興味」「楽しさ」「勇気」が育まれる場でなければならないと強く感じている。</p> <p>そのために、学校という場や、学校での学びが、同世代の仲間たちと共に過ごす中で成立する必要がある。</p> <p>子どもたちが互いに意見を交わし、時にはぶつかり合いながら、多様な考え方触れ、自分の視野を広げて成長できる、そのような学びが実現できる学校でなければならない。</p> <p>児童生徒にとっての生活の場は、学校だけでなく家庭や地域もあるが、「同世代の集団の中で得られる学びや経験」を提供できる場は、基本的に学校のみ。</p> <p>よって子どもたちが「自立した学習者」として成長していくためには、同世代の集団が成立するような程度の規模や人数が必要ではないかと考える。</p> <p>一方、学校には教育だけでなく地域の拠点としての役割もある。</p>

	教育条件の改善・充実を中心に据えると同時に「未来につながる学びがあふれる学校」のあり方を、教育委員会だけではなく、市役所全体で一体となって考えていく必要がある。
市長	子どもの成長に対して、責任をもって、どうすれば良い教育ができるのか、地域の一員として、教育委員会として、それぞれ考えていると思うが、急がなければならないのも事実。
松田 委員	<p>玉野市の例にもあるように、地域や保護者の方との対話はとても大事。</p> <p>教師としては子どもの成長を「こう捉えて、こう育てたい」と話す一方、「地域の立場であればどう考えるか」ということも、忌憚のない意見交換が必要。</p> <p>目ざすのは、子どもたちの健やかな成長とふるさとの繁栄であり、そこは誰にとっても共通しているはずだからこそ、お互いの思いを率直に出し合い、折り合いをつけていくことが大切だと思う。</p> <p>富田中学校と和田中学校の統合の際には、「和田中に伝わる郷土芸能がどうなるのか」と心配されたが、実際には富田中の生徒が和田まで活動を広げており、統合によって伝統が継承されただけでなく、むしろ広がりを見せていている。</p> <p>これはとても素晴らしい発想で、さらに広く見れば周南市という地域全体を理解していくことにもつながるのではないか。</p> <p>ふるさとは特定の一地点だけを指すのではなく、「周南市という地域全体がふるさとなのだ」と捉えられる。</p> <p>急がなければならぬ状況だからこそ、皆が自分事として考えることが必要。</p> <p>保護者の立場でも、「子どもが成長したら市外に出て頑張ってほしい」と願う方もいれば、「できれば地元に残ってほしい」と思う方もいる。</p> <p>そうした思いも、日常の中で話題にしながら共有していくことで、同じ土俵で語り合えるようになるのではないかと思う。</p> <p>こうした対話を、ぜひ学校運営協議会の場でも積極的に進めていただきたい。</p>
吉本 委員	色々な方の意見も聞いて、話し合いをしていく必要があるからこそ、早めに取り掛かり、じっくり話をしていくことが、結果良い方向に繋がるのではないかと思う。

市長	<p>それぞれの学校の歴史は大切だが、今後を考えるにあたっては、地域の立場としての意見は尊重しつつも、子どもの教育、子どもの将来を中心に据えて考えなければならぬ。</p> <p>今後は小規模校だけでなく、「複数の学校の学区が重なり合っている地域」についても、どうするのかを視野に入れていく必要がある。</p> <p>市街地においても、クラス替えができず、友達関係が固定されるような規模の学校になってしまふとすれば、近隣の学校との連携や統合を視野に入れて進めるべき。</p> <p>これから優先的に取り組んでいかなければならないのか、その方向性をしっかりと共有していきたい。</p>
松田委員	<p>過小規模校という観点で見ると、それぞれの地域で特色ある学校運営がなされていて、郷土の誇りとなっている例も多い。各地域で大切に取り組まれていることも理解できる。</p> <p>ただ、注目すべきは「単学級ずっと運営されている学校がある」という事実であり、「昔は児童数が多かった」という感覚のままでは現状を見誤ってしまう。今はそうではない、という情報をきちんと認識しなければならない。</p> <p>周南の広い市域の中で、学校をどのように運営していくのか、そして子どもたちをどう育てていくのか、さらに地域の活性化を考えるときに、「適正規模」という視点が必要。</p>
岡寺委員	<p>空き教室が多くあることからも明らかで、市街地の学校でさえ、さまざまな課題について考えていかなければならない状況が出てきていることを、リアルに実感している。</p> <p>同じ地域に住んでいても、進学先は別の学校という子も多くいる。</p> <p>このような現実を踏まえないと、将来の状況をシビアに予測することは難しいと思う。</p>
松田委員	<p>それは保護者の願いや、本人の思いで学校を選ぶ自由があるということで、「住んでいる場所の学区に応じてそのまま学校に進学する」という状況が変わってきている。</p> <p>こうした傾向を踏まえながら、学校を統合することで、逆に子どもたちが選択しやすくなる場合もある。</p> <p>資料の数値やデータはよく注意して見る必要があり、特に小学校に関しては、現実がそのまま反映されている場合が多いので、現在の学校の人数や学級構成を正確に把握することが大切。</p>

	<p>学校の規模が適正であれば、人の目も増え、見守りや教育の質にもプラスの影響がある。</p> <p>学校運営協議会では、こどもたちがより良く成長をするため、立派に育つようにという視点で話し合いがなされている。難しく考えすぎず、オープンな形で意識を共有していくことが大事。</p> <p>現在のコミュニティ・スクールに関わっている方々を中心に戸籍をどれだけ巻き込めるかを考える時には、市がこれまで取り組んできた実績を活かせる。</p> <p>早い段階からこの視点を持って、皆で自分ごととして考えてみることが必要。</p>
片山委員	今より前だけが歴史ではなく、今後作っていくのも歴史なので、適正化後の学校とその学校を含めた地域の歴史が新たにできていくといった発想もできるのではないか。
市長	人口減少だからこそ、できることの一つであるのかもしれない。
片山委員	新しいことが出来るんだという発想でもいい。
市長	皆さんの考え方と同じであるのはよく分かりました。
教育長	<p>教育委員会としては、様々な角度からのご意見を参考にし、市長部局や関係する方々のところに出向く、または参画していただいて、色々な議論をしながら進めて行く必要があると考える。</p> <p>時間をかけて、試行錯誤しながら進めて行く必要がある。</p>
市長	今後のスケジュールは決まっているか。
教育長	本年度に府内の会議体を作り、来年度以降は民間の方を交えた協議会で色々なご意見をいただける場を作りたいと考えている。
市長	丁寧な対応と検討が必要で、言葉一つ間違えても大事になりますので、慎重に進めて行きたい。
松田委員	まずは視点整理をして、項目を出してもらえると具体的に考えることができる。
吉本委員	<p>文科省が適正規模・適正配置という言葉をあえて使っているのは、その土地にあわせて考えましょうということを訴えられているのかなと思う。</p> <p>適正な学校のあり方を地域のみんなで考えましょうという意味が含まれているのではないかと思った。</p>
松田委員	周南市にとっての適正をイメージすること。
市長	学校施設の老朽化も著しく進んでいるので、その整備もしっかりお願いしたい。

事務局	事務局では、本日の協議を踏まえて周南市の小中学校の適正規模・適正配置について、検討を進めていく。 次年度に向けて検討委員会を設置し、今後の児童生徒の教育環境がよりよいものになるよう議論を深めていきたい。
-----	--